

January.2026

TAKUSUI No.831



JFグループ兵庫

たぐろ



CONTENTS

- 2 新年のご挨拶
- 6 県農林水産業の功労者表彰
“令和7年度兵庫県水産賞”受賞者決定／
黒田俊文氏が兵庫県自治賞を受賞／
JF兵庫漁連 第50回通常総会
- 7 養殖マガキの斃死対策に関する要望書を
齋藤知事に提出／虹の仲間であそぶ／
漁師の仕事！まるとイベント
漁業就業支援フェア2026冬について
- 8 兵庫県水産振興議員連盟役員との懇談会開催／
一宮町漁協 武田副組合長が、
優良実践事例紹介に発表者として登壇
- 9 漁船保険担当者が実務研修を受講／潮を編む
- 10 ようそろ／浜のイベントカレンダー
- 11 兵庫JCC通信／協同組合人養成講座の開催
- 12 SEATCLUB魚介レシピ

次代を拓く 兵庫の力

兵庫県知事 **齋藤元彦**



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年という大きな節目を迎え、過去を振り返り、未来への責任を改めて心に刻む、意義深い一年となりました。

令和8年は午年。力強く駆け抜ける「行動力」と「挑戦」を象徴する年であり、未来に向けた兵庫づくりを力強く進めてまいります。

第1は、若者・Z世代へのさらなる支援です。県立大学授業料無償化等の教育費負担の軽減、県立学校の教育環境の充実、海外留学支援、不登校やケアリーパー等の課題を抱える若者への支援など、一人一人が自らの夢や目標に向かって、力を発揮できる環境を整えます。

第2は、活力あふれる兵庫の創出です。フィールドパビリオンなどの万博のレガシーを活かした交流人口の拡大や、スポーツ・芸術文化の振興、農林水産業や地場産業への支援など、地域の魅力を高め、活力ある兵庫を築いていきます。

第3は、安全安心な暮らしを支える基盤の強化です。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、防災力を高めるとともに、上下水道の老朽化対策、特殊詐欺被害対策、ツキノワグマ対策などの日常の安全を守る取組を強化していきます。

未来を見据え、県民の皆様とともに新しい時代を切り拓いていく決意です。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

年頭のごあいさつ

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長 **田沼 政男**



新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は世界的に不安定な情勢が続いたことや、国のデフレ脱却政策の影響から人件費など様々なコストの上昇に見舞われました。本県水産業においては、のり養殖で過去最高の生産金額となる喜ばしいことがあった反面、貧栄養化や海水温の上昇といった海洋環境の激変の影響を受け、漁船漁業をはじめ漁獲量が軒並み減少したこと、さらに船費や資材の値上がりが重なったことで、今までになく厳しさを実感した一年となりました。

このような中、JFグループの新たな運動方針「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」の実践に向け、水産多面的事業の予算拡充が行われ、本県海域での活動も大きく拡大することができました。第6次中期経営計画の最終年度として、一つでも多く計画の達成を目指すとともに、本県における重要課題である豊かな海の再生では各海域で施肥を積極的に行っており、実施した場所では多くの魚が獲れたとの報告もあります。また、イカナゴの飼育試験も開始しております。その効果はすぐにあらわれるものではありませんが、漁業者一丸となり粘り強く着実に取り組むことにより、豊かな海の実現に向け歩みを進めて行く所存であります。

本会においては、昭和51年の3漁連合併から50年となる節目の年となります。

2026年の丙午（ひのえうま）は「火の勢い」を象徴する年と言われ、従来の枠にとらわれることなく、情熱を持って力強く前進する様の如く、様々な課題に立ち向い、そして乗り越え、皆様のご期待にお応えできるよう、役職員一同、より一層精進し努めてまいり所存ですので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

年頭にあたり、本年が漁業にとって明るく希望の持てる年となりますよう、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

なごさ信用漁業協同組合連合会 経営管理委員会 会長 **村瀬 晴好**



新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に対し格別のご高配をいただいておりますことにあらためて厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、4月13日から55年ぶりに大阪関西万博が開催され、184日間の一般来場者数は2,557万人が来場する賑わいとなりました。

一方、7月にはカムチャツカ半島沖地震の発生により、太平洋側全域に津波警報が発出されたことで、当会和歌山県域の店舗を休業にすることとなり、また、8月には九州地方で記録的な大雨被害、9月には静岡県で突風による竜巻被害が発生するなどの、自然災害に見舞われました。

さて、金融経済面においては、1月にトランプ米大統領が就任し、4月にはトランプ政権による相互関税の発表により、一時は、日銀の利上げ観測は後退したものの、金融政策の正常化を継続していく姿勢に変化はないものと見込まれます。

金融機関にとって、「金利ある世界」への回帰は、収支改善が期待される一方で、金利上昇に備えたリスク管理態勢の一層の強化が求められることになります。

本会としましては、経営の基本目標に中長期ビジョンの実現を掲げ、「収支構造のさらなる安定化」、「漁村地域への貢献と組織基盤強化のための体制整備」等に引き続き取り組んでまいりました。具体的には、資金運用の多様化による収益補完を図るとともに、貯金調達コストの効率化によって事業収支率の向上を図ったほか、店舗政策としては、今後想定する人的資源による業務継続体制を構築する施策として7月に兵庫・和歌山両県6支店の営業店化を実施しました。

また、提案型事業推進として漁業周辺産業への情報提供や融資提案を推進してきたほか、関係団体と連携した水産業支援としてJFマリバンク漁場環境保全活動サポートにも伴走支援者として積極的に関わってまいりました。

そのような中、昨年9月に発生いたしました本会元職員による不祥事件により、会員並びに利用者の皆様に多大なご心配をおかけしましたことを衷心よりお詫び申し上げます。

今般の事件発生を厳粛に受け止め、信頼回復のため役職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。

今後とも、皆様から「愛される浜の金融機関」であり続けるため、本年も役職員一丸となって事業運営に取り組んでいる所存ですので、引き続きご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

兵庫県漁業共済組合 組合長理事 **川越 一男**



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昭和39年に漁業災害補償法が施行され、「ぎょさい」は台風・赤潮等の自然災害による漁業被害や不漁・魚価の低迷などによる損失を補償し、漁業経営の再生産と安定に寄与する事業としてスタートしました。これまで数次にわたる法律改正を経てきましたが、昨年5月にも漁業災害補償法が改正・公布され、新たな補償の仕組みが創設され、令和8年4月1日施行・改正されます。また、計画的に資源管理・漁場環境の改善に取り組む漁業者を対象に漁獲変動等に伴う減収を補填する漁業収入安定対策事業（積立ぶらす）が実施されており、「ぎょさい」とあわせて漁業経営を守るセーフティネットとしての重要な役割を担っており今年度は新たに漁獲共済の強度資源タイプにスルメイカ及びサンマ強度が新たに追加され計画的に資源管理に取り組む漁業者を積立ぶらすの制度拡充を図り支援することとなりました。

さて、昨年を振り返りますと過去最長に継続していた黒潮の大蛇行は終息したものの、兵庫県内の内海地区においてはノリ養殖が単価高騰にも支えられ過去最高の水揚げとなったものの春のイカナゴ漁は継続的な不漁に続き、夏～秋場の高水温等によりかき養殖業が過去にない海洋環境の変化等に起因する環境疾病に伴う大量斃死が発生しております。又、日本海地区ではスルメイカ漁及び赤イカ漁が大不漁となっているにも関わらず北海道・青森県・岩手県を中心に異例の豊漁となり小型イカ釣り5～30ト船についてはTACオーバーにて過去事例のない操業停止となり当県のイカ釣り漁業者も沖に出れない異常事態が生じ困窮する状況となっており、沖底についても主力のスズイガニ漁が大ズワイの影響等も含め昨年末で好調だった単価が下降傾向となり水揚げ低下が心配されております。

一方、全国ではサンマが近年より回復傾向にあるものの鮭の不漁に付け加え大規模な林野火災による定置網漁具・わかめ養殖業の施設等の焼失被害、カムチャツカ半島沖地震の津波によるかき養殖業を中心とした漁業施設の損壊、線状降水帯による日本海側の東日本から西日本にわたる広範囲での大雨被害等も発生しております。また、国際情勢の影響で燃油・餌料価格が高止まりするなど、漁業経営を取り巻く環境は依然として厳しい年となりました。

そのような中、「ぎょさい」と「積立ぶらす」は漁業経営のセーフティネットとして国の重要な水産施策に位置付けられており、「ぎょさい」と「積立ぶらす」への加入は、安心して漁業経営を継続する上で欠かすことのできないものとなっております。改正された漁業災害補償法による制度のもと、県・漁協系統・漁業者での皆様と緊密に連携しながら事業の実施に努めて参ります。

今年度も残り3ヵ月となりましたが、令和7年度の普及推進目標として掲げている「ぎょさい」の共済金額約343.4億円、「積立ぶらす」の漁業者積立額9.8億円の達成に向けて役職員が一丸となって加入推進に取り組んで参ります。

新たな一年が災害のない豊漁・豊作となることをご祈念申し上げるとともに、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

兵庫県農林水産部水産漁港課長 望月 松寿



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年は、大阪・関西万博が開催されましたが、その中で豊かな海に関するコンテンツが世界に発信されるなど、水産業の重要性が多くの人に周知される機会となりました。また、「日本を強く、豊かに」というスローガンのもと、日本初となる女性首相が誕生し、農林水産業にも活力が出てくることを期待しています。

しかし、水産業においては、気候変動の顕在化による漁場環境の変化や水産資源の減少、燃油をはじめとした物価高騰など、懸念材料は山積しています。

そのような中、本県の水産業に目を移しますと、日本海では、冬の食卓を豊かにする松葉ガニは、堅調に水揚げされており、引き続き、盛況なシーズンになることを願っております。瀬戸内海では、ノリ養殖が盛漁期を迎えており、ここ数年の生産量、生産額的好調が継続されることをご期待しています。一方、昨年秋からマガキ大量へい死があり、大きな被害となっています。これに対しては、資金繰り支援、今後のモニタリング強化を通じて、原因究明と被害軽減に向けた取組を加速していきたいと考えています。資源の減少に苦しんでいるイカナゴについては、漁業者の皆様が実施する肥育放流などの取組に支援をして参ります。また、マダコ種苗の量産化への技術開発に取り組むほか、担い手対策として漁労作業の省力化機器の導入支援を進めていきます。さらに漁港においては、日本海での岸壁の耐震化などを着実に推進しますとともに、瀬戸内海では巨大地震による津波に対する対策などを進めて参ります。

ここ数年、多くの若手職員が仲間に加わっています。フレッシュな力やアイデアも生かしながら、職員一同、全力で取り組んで参りますのでご指導ご支援をよろしく願いいたします。

最後になりましたが、令和8年が、皆様にとって実り多い年となりますことをお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ

兵庫県立農林水産術総合センター 水産技術センター所長 山下 正晶



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年を迎え、復興した神戸三宮では再整備が進んでいます。また大阪・関西万博は、当初の予想を覆し大盛況で閉幕しましたが、共に「未来」がテーマになっています。一方で昨年の夏は5年ぶりに最高気温を更新し、かつてない猛暑となり、「未来」への持続的な発展には、環境変化への対応と対策が課題となっています。

そのような中で、兵庫県の水産業に目を移しますと、日本海では、「日本海の蟹守人」をキャッチコピーに「日本海ズワイガニ五府県PR協議会」が発足し、府県の垣根を超えた各産地の魅力と資源管理の大切さが発信されていきます。瀬戸内海では、ノリ養殖は昨漁期には生産量、産出額とも過去最高を記録しましたが、その一方で昨年夏以降の高水温と餌不足と考えられる影響で、養殖マガキの大半が斃死する過去に経験したことのない被害が発生しました。

貧栄養化の進行や海水温の上昇など、海域環境の大きな変化に対応した資源管理と調査研究を進めていく必要があります。このため当センターにおきましては、日本海では、ズワイガニやホッコクアカエビ等の資源調査などに加え、今年度からはアカガレイの再生産メカニズムの解明に取り組んでいきます。また瀬戸内海では、ノリやワカメの食害対策や高水温でも成長するノリやサーモンの育成試験などに加え、今年度からはマダコの浮遊幼生の食性解析やイカナゴの肥育試験への支援を強化し、さらにカキ養殖では餌環境調査や貝毒調査に加え、昨年の斃死被害への対策を検討していきます。

本県水産業の持続的な発展のため、本年も研究員と船員が力を合わせ、調査研究に取り組んで参ります。引き続きご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方にとって本年が大漁満足な年になりますことをお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 坂本 雅信



あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

近年、国内外における社会・経済情勢は混迷を深めており、漁業を取り巻く状況についても前浜の魚種の変化や漁獲量の大幅な変動、魚介類の育成に必要な藻場・干潟の減少などが顕著になっております。また、昨年は陸奥湾におけるホタテガイや瀬戸内海におけるカキの大量斃死など、全国各地で「海洋環境の激変」が原因とみられる被害が多発した1年でありました。

この「海洋環境の激変」という難題に的確に対応し、水産資源の持続的な利用を実現していくため、JFグループでは、「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンとした5カ年の運動方針を策定し、昨年4月からスタートさせたところです。

私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しており、今がまさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。そこで、JFグループでは運動方針の下、漁業者およびJFの経営基盤の強化を図るとともに、自らが取り組む事業や経営に関する改革を進めて参ります。さらに、海洋環境の激変や物価上昇による漁業用の燃油・資材・餌飼料価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制などの課題克服に向けて、組織の総力をあげて取り組んで参ります。

また、地域ごとの実態やニーズを踏まえて水産業・漁業を振興させることを目指して、「浜の活力再生プラン」、「広域浜プラン」の実践や異業種企業、農林業・商工業者との連携を図るとともに、将来を見据えた資源と環境を同時に回復させるための「環境回復型漁業」にも力を入れて参ります。併せて、プライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、日本産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

感謝を込めて75周年

全国共済水産業協同組合連合会 代表理事会長 楠田 勇二



新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、浜の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素よりJF共済に格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨年11月に大分県で発生した大規模火災や、台風や地震、線状降水帯による大雨や山火事等の自然災害により被害に遭われた全国各地のJF組合員・漁家世帯員および地域住民の皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

昨年は観測史上最高気温を更新するほどの猛暑が長く続き、海洋環境の激変に伴う漁獲魚種の変化や、不安定な社会・経済情勢、燃油や漁業資材等の物価の高騰等、漁業者やJFを取り巻く事業環境は先行きの不透明な状況がなおも続いています。

こうした中、JFグループでは2025年度からの運動方針「海洋環境の激変に立ち向かうJF自主改革の断行」に基づき、①漁業者を支える事業・経営改革の断行、②組織基盤の確立、③浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献を3つの柱として取り組んでおり、JF共済としましては、JFグループの運動方針に則り、「浜のあんしんサポート運動」の展開とさらなる定着化を図ることで、浜の皆様へ万全の保障を提供し、事業量目標の必達と保有契約量の維持・拡大に向け邁進してまいります。

JF共済は本年1月に創設75周年を迎えます。

漁業者からの一通の手紙をきっかけにスタートしたJF共済は、浜の皆様や各地域のJFのご協力・ご支援によって、大規模自然災害にも万全を期す強固な組織にいただきました。

2026年度からは新しいJF共済3か年計画が始まります。

75周年を機に浜の皆様へのニーズに応えるため新たな保障制度の開発を進めており、新中期計画の取り組みを通じ、これからも「浜のあんしんサポート運動」の積極的な展開を基軸として、共済の輪の拡大と深化を図りながら万全の保障の提供に努めてまいります。

全国の浜の皆様への操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

県農林水産業の功労者表彰 “令和7年度兵庫県水産賞”受賞者決定

長年にわたり農林水産業の深奥発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が12月23日(火)ラッセホール(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF姫路市 星尾隆文さん、JF森 森 二兵さん、JF但馬 塩谷政弘さんの3名が受賞されました。表彰式では齋藤元彦知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には心よりお慶び申し上げます。

氏名	所属	功績内容
星尾 隆文	JF姫路市	地域漁業の振興と栽培漁業の推進に貢献
森 二兵	JF森	豊かな海の再生と漁獲物の品質向上に貢献
塩谷 政弘	JF但馬	沖合底びき網漁業の振興と漁協経営の経営の安定に貢献

(敬称略)



黒田 俊文氏が兵庫県自治賞を受賞

令和7年度兵庫県自治賞が発表されました。

東播磨地区において、黒田俊文氏(なぎさ信用漁業協同組合連合会前代表理事理事長)が受賞され、12月16日(火)に加古川総合庁舎において表彰されました。心よりお慶び申し上げます。

黒田俊文氏(なぎさ信用漁業協同組合連合会前代表理事理事長)▶



JF兵庫漁連 第50回通常総会 開催

JF兵庫漁連は12月8日(月)、明石市内のホテルにおいて、第50回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼会長より「本県の重要な養殖業であるカキ養殖では、高水温とエサ不足を原因とする大量へい死が発生した中、齋藤知事へ「養殖マガキのへい死対策に関する要望書」を提出するとともに国会議員の先生方にも対策を強く要望しているところです。一方、JF坊勢が大規模な施肥を行った場所ではマナガツオが獲れたり、そこにだけシラスがいる」といった話を聞きました。豊かな海づくりに向けた取り組みが実を結び、資源回復につながることを望んでおります。

また、第50期の本会事業において、のり共販は共販価格が高値で推移したことや漁期終盤まで生産できたことで、計画を大きく上回る結果となりました。一方、加工事業は、イカナゴ漁の影響を大きく受けるとともに経費が上昇したことで利益幅が圧縮されましたが、全体では計画を上回り皆様へ配当ができる結果となりました。

これもひとえに会員の皆様方のご協力・ご支援のおかげと

厚く御礼申し上げます。」と挨拶をされ、続いて来賓代表として、兵庫県農林水産部宮島次長から祝辞を賜りました。

第50期の事業実績は、事業取扱高547億2千6百万円、経常利益6億5千8百万円(計画対比5億9千3百万円増)となり、第50期事業報告、第51期事業計画等、上程した6議案は全て可決承認されました。第51期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役職員一同今後も引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。



JF兵庫漁連

養殖マガキの斃死対策に関する要望書を齋藤知事に提出

JF兵庫漁連 指導部

兵庫県の播磨灘海域で実施するマガキ養殖において、秋以降マガキの斃死が各地で確認されるようになり、約7～8割が斃死し、生育状況も悪く、出荷が遅れることに加え、生産量低下も見込まれる状況となりました。

11月27日(木)、兵庫県播磨灘カキ生産者協議会の川端浩司会長(JF相生・代表理事組合長)、赤穂市漁業協同組合の大河優代表理事組合長、兵庫県漁業協同組合連合会の田沼政男代表理事会長、田中稔彦専務理事の4名は、兵庫

府齋藤元彦知事を訪れ、マガキ養殖を継続し、消費者に良質のマガキを提供出来るよう「養殖マガキ斃死の原因究明と対策」「マガキ養殖継続のための低利な融資等の対応」を要望しました。

12月12日(金)には、養殖マガキの不漁に対するパッケージを含めた令和7年度12月補正予算が可決されました。

マガキ養殖の継続に向けた早急な支援への実施について、本誌をお借りして改めてお礼申し上げます。



虹の仲間で森づくり ～神出神社(神戸市西区)周辺で開催～

豊かな海を次の世代に引き継いでいくため、「豊かな森が豊かな海を育てます」を合言葉に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間で森づくり」が、神戸市西区にある雌岡山で開催されました。12月6日(火)、今年で19回目となる活動として県内各地からJFグループ関係者やコープこうべの組合員、行政・企業関係者など約120名が集まりました。

まず開会にあたり、JF兵庫漁連田中稔彦専務の挨拶に続き、NPO法人ひょうご森の倶楽部山下広行会長より注意事項の連絡の後、全員で準備運動を行いました。

その後、ヘルメット姿の参加者は各班に分かれ、森の倶楽部の指導員の方々に誘導されながら森に入りました。指導員の説明を受けた参加者は周囲に気を付けながら広葉樹や花の咲く樹を残して、常緑樹や蔓性の植物を除去しました。

作業終了後は昼食・交流会を行い、生活協同組合コープこうべ河端晶子理事より閉会の挨拶をいただきました。

多くの仲間とともに汗を流した今回の活動が、次世代へ豊かな自然を残す大きな一歩となりました。



漁師の仕事!まるとイベント 漁業就業支援フェア2026冬について

JF兵庫漁連 指導部

漁師になりたい方や漁業に興味のある方が、全国の沿岸漁業から遠洋漁業の漁師、漁業会社、漁協担当者と「漁師の仕事」「地域での生活」など直接話ができる「漁業就業支援フェア」が毎年(一社)全国漁業就業支援育成センター主催により開催されております。

来る2月7日(土)には「漁業就業支援フェア2026 冬 大阪会場」が開催され、JF兵庫漁連も出展を予定しています。

働き手不足や後継者不足などでお困りの漁業関係者の皆様で、求人情報の提供などございましたら、指導部まで事前にご連絡ください。

【お問い合わせ JF兵庫漁連 指導部 TEL:078-940-8013】



兵庫県水産振興議員連盟役員との懇談会開催

兵庫県漁港漁場協会

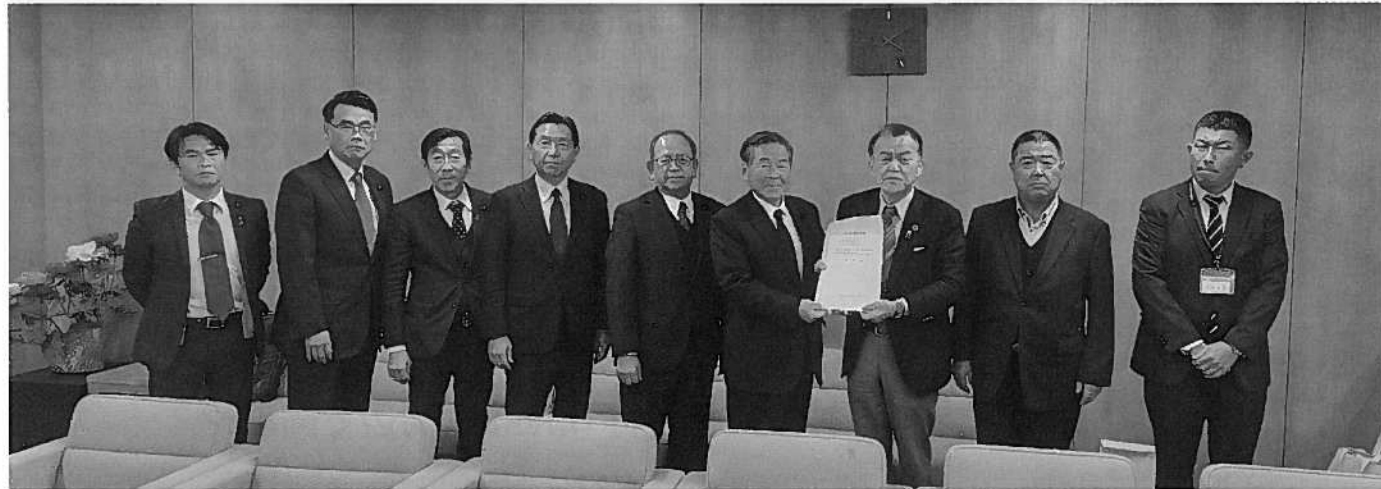
12月9日(火)、午後4時から兵庫県庁3号館2階議員応接室で兵庫県水産振興議員連盟役員と兵庫県漁港漁場協会役員との懇談会が開催されました。

兵庫県水産振興議員連盟からは、浜田 知昭会長をはじめ副会長、事務局長、幹事の6名の県会議員のご出席をいただき、兵庫県漁港漁場協会からは浜上会長、田沼副会長、土井南あわじ市水産振興課長(守本副会長代理)、事務局長の4名が出席しました。

兵庫県からは、呉田 利之農林水産部次長、望月 松寿水産

漁港課長、小寺 寿充漁港整備官のご出席をいただき8月26日に開催された第65回兵庫県漁港漁場大会において決議された「漁港漁場整備長期計画の推進と令和8年度予算の確保」など4項目の決議事項の実現に向けて、浜上会長から浜田会長に要望しました。

引き続き、漁港漁場の整備だけでなく、各地域の漁港の課題、資源管理や豊かな海づくりなど意見交換を行い、有意義な懇談会となりました。



一宮町漁協 武田副組合長が、優良実践事例紹介に発表者として登壇

なぎさ信用漁業協同組合連合会

11月28日(金)に、東京都内の品川プリンスホテルで農林中央金庫主催の「第4回JAバンク経営者フォーラム」が開催され、農業・くらし・地域におけるJAの3優良事例以外に、一宮町漁協が主体となって取り組んだ「JFマリンバンク漁場環境保全活動サポート活動(かいぼりや親子料理教室)」が、漁場保全および食育にかかるJF・JA連携の優良実践事例としてノミネートされ、JF・JA双方の代表者(JFは武田副組合長)が壇上で発表を行いました。

JAバンク経営者フォーラムは、JAバンク全国大会の後継となる取組で、JA経営層同士の相互研鑽に向けたイベントとして毎年開催され、今年は総勢151人が参加しまし

たが、昨年の北海道・鶴川漁協の漁協直販事業強化にかかる活動紹介に続いて、JFからの参加は2例目の事例となりました。

当日は、一宮町を身包んだ武田副組合長が、海や地元への想いを熱弁されたほか、漁業・農業会ともに課題となっている後継者不足と絡めて、取組継続に向けた他団体とのより一層の連携を強調されました。

また、発表後は落語家さんの基調講演のほか、JAバンクイメージタレントさんとの記念撮影やサイン・トロフィーの受領もありましたので、気になる方は是非一宮町漁協に足をお運びください。



漁船保険担当者が実務研修を受講

～事務処理の円滑化を目指してエンジンの構造等を学ぶ～

10月21日(火)、22日(水)日本漁船保険組合兵庫県内海支所主催の「漁船保険担当者実務研修」がヤンマーTTスクール塚口校で開催されました。6年ぶりに開催された研修には、内海各地から漁協職員など14名が参加しました。

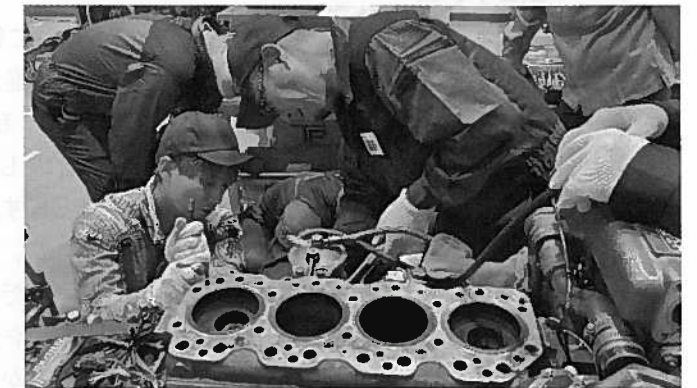
初日の午前中はディーゼルエンジンの概要について座学が行われ、休憩時には機械が苦手な参加者からは「難しい～」と悲鳴に近い言葉が聞かれました。午後からは3班に分かれ、それぞれ与えられたエンジンの分解に取り組みました。様々な工具を駆使し、ピストンを1本抜き出したところで

初日の作業は終了。エンジン内部のパーツを見ながら、先生から0.1ミリ単位で調整を行う話を聞き、エンジンの精密さに驚かされました。

翌日は前日分解したエンジンの組立を行いました。苦労してボルトを指定のトルクまで締め付けて完成したと思いきや、ボルトが1本余ってしまったなど悪戦苦闘しながらも、予定の時間内に3台とも組み立て作業は完了しました。研修参加者の皆様、お疲れさまでした。



研修の参加者



エンジンの分解作業の様子

今月号から元神戸新聞記者金山成美さんのコラム『潮を編む』がスタートします。読者の皆様が「へえ」と思ってお話を不定期でお届けしますので是非ご覧ください！

潮を編む

① 漁業と運命の出会い

漁業の世界に導かれ、今こうして「拓水」にコラムを書いていることを不思議に思う。1956年創刊で800号を超える歴史がある業界機関誌に、知識も経験も浅い第三者が筆を執ることに戸惑いもあるが、錨を上げる気持ちで引き受けることとした。

芥川龍之介の「運命は偶然よりも必然である」という名言が頭をよぎる。神戸で育ち、海は身近にあった。京都の大学に通ったときには「そういえば海が見えない」と気付いて寂しさを感じた。魚と言えば「おいしい」という言葉がまず浮かび、子どものころから骨付きでも割ときれいに食べた。それでも漁業は、遠い存在だった。

神戸新聞記者時代、事件、行政、スポーツ、地域の話など幅広く取材し、紙面編集も担った。2013年、偶然赴任した明石は海、魚のまち。市内5つの漁協へ挨拶に行くと、「メディア嫌いやから」とかわされた。気にせずに浜へ通い、世間話をし、いろんなことを教えてもらい、いつしかお酒の席を共にするようになった。熱を帯びて語られる内容は、知らないことだらけ。「それ、もっと一般の人に伝えないと。私が書きます」。すっかり漁師に魅せられていた。

2016年には年間連載を手掛けた。締めくくりは5組合長による座談会。会議室で始まった話は、「ガソリン(酒)いるやろ」と居酒屋へ場所を移し、計7時間にも及んだ。同時に話すので録音機は役立たない。あの濃密すぎる時間は忘れられない。

コラムタイトル「潮を編む」は、潮を読み、海を熟知する漁業者への敬意から名付けた。取材や取り組みを通して感じた海的话题を、丁寧に編んでいきたい。

金山成美(ライター/プランナー)



2001年、神戸新聞社に入社。記者として事件・行政から地域の話まで幅広く取材し、東京五輪をはじめスポーツ報道にも長く携わった。2013年からの4年間は明石総局で勤務、漁業取材にも力を入れ、「時」と「海」をテーマにした連載をまとめた書籍『あかし本』を手掛けた。

2023年に退職し、現在はフリーのライターとして水産やスポーツを中心に執筆。2024年秋から一般社団法人neo-wave代表理事。漁業が一次産業として未来につながっていくよう、第三者の立場から発信に力を注ぎ、イベントやプロジェクトの企画・運営なども手掛けている。

ドタバタ親子イベント

日本漁船保険組合 兵庫県内海支所 川本 寛代



新年あけましておめでとうございます。初めまして、日本漁船保険組合の川本と申します。自己紹介も兼ねて、最近始めた新しい趣味のことを書かせていただきます。

私には子供が三人おまして、休日はもっぱら子供のやりたいこと・行きたいところに付き合う日々を送っております。

昨年ようやく暑さが和らいできた秋頃に、子供が「釣りがしたい!」と言い出しました。かろうじて釣り竿はあったものの、主人は休日仕事で不在、私はというと数回行ったことがあるくらいの初心者レベル。困っていたところ、ちょうど友達家族に誘われ、一緒に行くことになったのが始まりです。

まず、エサの調達に母一人子ども三人連れて釣具屋さんへ行くのですが、店に入った瞬間、三人はまるで遊園地に来たかのように散り散りになり、誰かはルアーを何個もかごに入れ、誰かはエサの冷蔵庫を開け、誰かは高級そうな釣り竿を振っている。私はそのたびに、「触らない! 閉めて! それは買わない!」と走り回り、釣りに行く前にすでに軽く疲れてしまいます。

釣り場に着くと、さらにドタバタが加速します。「投げるの手伝って!」「糸絡まった!」「お腹すいた!」とまるで私は一人三役こなすサポートスタッフ。

そんな中、誰かが本当に魚を釣った瞬間だけは、三人が見事に一致団結し「すごい!」「写真撮って!」と大盛り上がりします。釣れるのはアジやタイ、グレ、サバなど。我が家は釣った魚は家へ持ち帰らず、最後に逃がすもしくは周りの釣り人に「良かったらいりませんか?」という、人によっては喜んでもらえ、お返しにお菓子をいただいたり、じゃあイカあげる!と物々交換したりと、その場で初めましての方との交流が増え、それも一つの醍醐味となっております。

うまくいかないことも全部含めて、今のところ釣りは親子の最高のイベントとなっています。帰り道、子供たちは決まって「また来週もいこう!」と言ってきます。一日中釣りをして、体力的にはもうヘトヘトなのに、その言葉を聞くと不思議と「よし、またいこう!」と前向きになるのです。

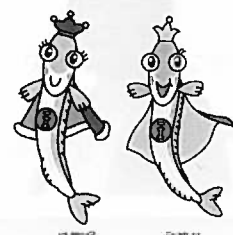
ドタバタで面倒で、けどとびきり楽しい。こんな親子の時間を大切にしていけたらと思います。



浜のイベントカレンダー

開催日時	イベント名	開催場所	主催者
1月15日(木) 10:00~	淡路農林水産祭	伊弉諾神宮	淡路農林水産祭実行委員会
1月18日(日) 8:00~	日曜かに朝市	浜坂漁業協同組合事務所横	JF浜坂
1月25日(日) 8:00~	日曜かに朝市	浜坂漁業協同組合事務所横	JF浜坂
2月1日(日) 8:00~	日曜かに朝市	浜坂漁業協同組合事務所横	JF浜坂
2月1日(日) 10:00~	明石のりまつり	あかし市民広場 (パピオスあかし2階)	明石のりまつり実行委員会
2月8日(日) 8:00~	日曜かに朝市	浜坂漁業協同組合事務所横	JF浜坂

浜の賑わいづくりにご活用下さい。
掲載希望の団体様は兵庫県水産振興基金まで。
皆様からのご連絡をお待ちしています。



丹波ひかみ 丹波山の芋生産組合 生産者の支援を充実させ、 伝統ある山の芋の栽培を継承する

本企画は、兵庫県を拠点に活動する生産組織にスポットを当て、設立に至った経緯や注力している取り組み、メンバーの意気込み等を紹介しします!

Q1. 組合の成り立ちについて教えてください

丹波市では、山の芋を江戸時代から栽培しており、地域の伝統作物として長年親しまれてきました。しかし、栽培には通気性・排水性に優れた土づくりや年間7回にも及ぶ病害虫防除等の手間と費用がかかることから、生産量が年々減少していました。

そこで、技術面・費用面の両側面から組合員を支援し、山の芋の栽培を次世代へ繋ぐことを目的として平成21年に丹波山の芋生産組合が設立されました。

Q2. 組合の方針について教えてください

丹波山の芋の生産振興および普及拡大」をモットーに、組合員を対象とした栽培講習会や資材の共同購入を行うことで、組合員の栽培技術の向上や負担の軽減を図り、収穫量の向上に繋がっています。

Q3. 組合の特徴について教えてください

本組合の山の芋が築き上げてきたブランドの信頼と価値を守るため、出荷時には長年山の芋の生産に携わってきた役員が、形状や重量等をつづつ手作業で確認し、厳選された高品質な山の芋だけを出荷しています。

Q4. 現在、力を入れている取り組みについて教えてください

本組合では、組合員の相互研鑽と情報交換を目的として、毎年収穫期に「丹波山の芋品評会」を開催しています。最優秀品に選ばれた生産者には、栽培講習会で当年度の栽培過程や今後の改善点を発表してもらい、組合内で栽培技術の底上げを図っています。また、品評会は地域の方々も観覧でき、本組合の山の芋の魅力を広く発信する機会にもなっています。

Q5. 今後の目標について教えてください

今後も、組合員の支援や情報交換の場を充実させることで、地域の特産物である山の芋の栽培を継承していきたいと考えています。また、農業体験等のイベントを積極的に企画し、地域の方々に本組合の取り組みや山の芋の魅力を知ってもらいたいと考えています。



<https://ja-grp-hyogo.or.jp/>

国際協同組合年 記念講演会

11月12日に国際協同組合年記念講演会として、日本協同組合連携機構(JCA)の比嘉政治専務理事に「協同組合だからできること〜協同の価値を私たちの言葉で〜」をテーマにご講演いただきました。

2025年が二度目の国際協同組合年になった背景にある協同組合への期待と評価についてや、協同組合のアイデンティティに関するICA声明についてご説明いただき、協同組合が抱える「目的(使命)と収支の両立のために」についてお話をいただきました。参加者にとって協同組合の事業活動を考える大きなきっかけになりました。

◆参加者の感想

- ・改めて生協の起源、役割を想起しました。特に印象に残ったのは国連が協同組合に期待している。その理由が、「地域の要求を自ら資金をつくり、その資金を事業で生み出している。利益追求だけを目的にしている株式会社では不可能な事を実現しているから」との説明は大変納得しました。
- ・「事業を通じて組合員のニーズと願いを実現し、その延長で社会や地域の課題解決に貢献」、改めて今後の事業活動の総括、方針に活かしていきたいと思いました。
- ・貴重なお話を聞けて良かったです。今後も協同組合の職員として「志」を持って仕事をしていきたいと思っています。



講師 比嘉専務理事



生協の役職員・組合員41人の参加がありました

<https://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

協同組合人養成講座 1月講座 1月23日(金)のご案内

開催時間	講座名	講師
13:30~15:00	「漁場環境について」	JF兵庫漁連 指導部 豊かな海づくり 担当課長 樋口 和宏 氏
15:10~16:40	「水産業協同組合法の解説」	JF兵庫漁連 指導部 部長 北村 伸也 氏

JF兵庫漁連

講座はWEB受講も可能ですので、多数の方々の参加をお待ちしております。また、会館での参加者による情報交換会では、簡単な食事と飲物を交えての職員間のコミュニケーションが図れますので、会館での受講にも参加下さい。

今が旬の魚介で作る！

保存版

簡単!!魚介レシピ

生海苔のナムル

～ 収穫時ならではの生海苔
～ 柔らかい風味が特長です ～



【材 料】

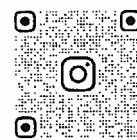
生海苔	30g
もやし	1袋
A	
鶏ガラスープの素	小さじ1
ごま油	大さじ1
醤油	大さじ1
白ごま	小さじ2
すりおろしニンニク	少々
糸唐辛子	少々

【作り方】

- ① 生海苔は水洗いし、色が変わるまで茹で、しっかりと水気をきりざく切りにする。
- ② 沸騰した鍋にもやしを入れ、1分程度ゆで、ザルにあげ水気をきる。
- ③ ボールにAを入れ、混ぜ合わせる。
- ④ 1の生海苔、2のもやしを入れ和え、糸唐辛子を添えて完成！

ひょうごのお魚ファンクラブ

SEAT CLUB



Instagram

表
紙
の
言
葉



虹の仲間であそび

今年で19回目を迎える「虹の仲間であそび」に約120名が参加しました。参加した子どもたちは、指導員や周囲の大人たちに教わりながら楽しそうに除伐作業に取り組んでいました。

当日の様子については7ページをご覧ください。